

# HAMON



## 「まちライブラリー」が一つの鍵？ 「個」が主役になるという、胸疼く着眼点

まちライブラリーの提唱者、磯井純充さんの本が出版され、各地でその内容をテーマにした座談会やトークショーが開かれている。本のタイトルは、『「まちライブラリー」の研究 「個」が主役になれる社会資本づくり』。

ライブラリーの入り口に平積みされているのでご存知の方も多いただろう。この本について、まちライブラリー@もりのみやキューズモールでも、磯井さんと対話する「『まちライブラリー』の研究 異論、反論、オブジェクション！」が開催された。「オブジェクション」とは、平たく言えば『意義あり！』。何とも挑戦的なタイトル。昼夜2部の夜の部で合計40人を優に超える参加者があったこのイベントについて、今回は1つの質問と視点に焦点をあててお伝えしたい。

### 上手いくまちライブラリーには何が「ない」か

『どのようなまちライブラリーが上手く行き、どのようなまちライブラリーが暗礁に乗り上げてしまうのか』。これは、誰もが問いたい質問だろう。

10年を超えるフィールドワークから磯井さんはそれをこう書かれている。「ゴールを決めればうまく行く」ではなく、「ゴールをきめていない方が案外うまくいく」、という現象が観られる、と。

### 玉子の「黄身」にばかり注目してしまう。でも、いま必要なのは「白身」のような場所

計画性がイノベーションを防いでいる可能性を、磯井さんは指摘される。たとえば、法隆寺を建てるとき、経済採算性など計算されたらどうか？ 加えて、役割の決まった「黄身」のような場所を作る事に目が行きがちだ。しかし、ボールに複数の卵を割り入れる



と、それぞれの黄身は「白身」により繋がりが合う。その、「白身」のような場所こそ、今必要なものではないかと話される。そして、「本」という「非日常」でありながら限りなく「日常」的なものが集まる「まちライブラリー」は、それにとっても適した場所なのではないかと。

### 日本人が大阪人になれば、世界の評価も変わる？

「大阪の人って勝手だから、まちライブラリーなんて儲からないもの、一番できないんじゃないかと思っていたのだけれど」と、これは、実際には、まちライブラリーという仕組みが他のどの都市より、大阪と親和性が高かった事への磯井さんの感想。まず、東京だと、無料で行われるものは信用されないらしい。その点、大阪は無料で飛びつく(笑).....いやいや、それだけではなく。

大阪人は、何の根拠がなくても、「オモロソウ」に関する嗅覚が鋭い。だからこそ、まちライブラリーはその気質に合致して、大阪人の間で盛り上がるのかもしれない。そして、もしそうなのであれば、大阪人が、それぞれの「オモロイ」を突きつめて作ったまちライブラリーは、どれほどの「非日常」に溢れた場所になる事か。これはまさに、「個」が主役だからこそ、生れる魅力だ。

『日本人が大阪人になれば、世界における日本の評価はかわるかもしれない』、と、磯井さんは笑っておられたが、まさにそれを実現させてみたいと思わされた。

## 本にまつわるシネマ 【第3回】本が凶器になるとき

いい本は時限爆弾と同じだ

### 私家版 (フランス/1998)

監督：ベルナール・ラップ

空堀シネマライブラリー-EndMark

夏りょうこ

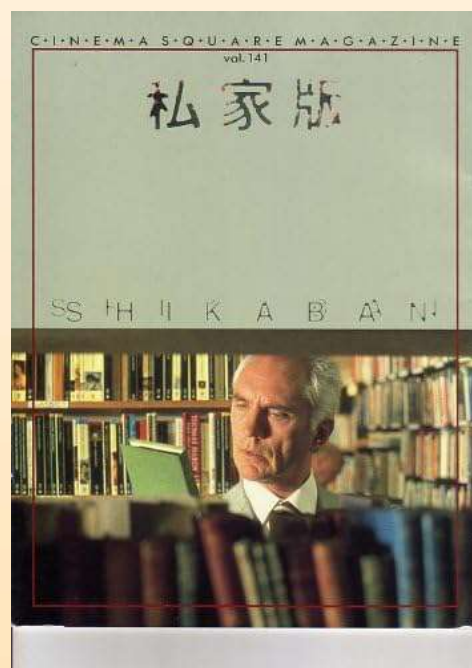
復讐劇は手が込んでいればいるほど面白いものだが、「作家の息の根を止めるツボを心得た編集者が復讐に燃えるとこんな追いつめ方をするのか!」という目からウロコな異色ミステリー。ある本を武器に、30年前に死んだ恋人の無念を晴らそうとする男の完全犯罪を描く。

分厚い本の角で思いっきり殴るわけでもない。指を舐めながらページをめくるクセがある人に、毒を染みこませた本を与えるわけでもない。そんなシンプルな方法じゃ完全犯罪はできないでしょ? ということで、練りに練った奇想天外な計画は、ターゲットの性格を知り尽くしていなければ成立しないギリギリの賭けでもあった。

怒りと悲しみを押し殺し、緻密で用意周到なプロセスを着実に進めていく主人公の表情が、まるで獲物から目を離さない鷹のよう。ところで、彼のアプローチにマニアックなりアリティさがあるなと思っていたら、原作者は歴史学者だとか。なるほど。「存在しないものを存在したかのように見せる」ためのプロセスがマニアックだし、周りを巻き込んでの心理戦もお見事だ。

憎い相手を思い通りに動かした挙げ句、しれっと生き地獄に突き落とす。たった1冊の

本を使って。それはまるで静かに燃えさがる炎のごとし。そこにあるのは復讐モノにありがちなカタルシスではなく、淡々と黙々とやるべき事をやり遂げた男の姿だ。かっこいい。でも哀しい。ともあれ、致命的な弱点を斜めから突かれたら人間おしまいですな。くわばら。くわばら。



### かじランのちょこっとウィーキング講座

ウォーキングを始めたあなたにちょこっとアドバイス

ウィーキングを習慣にするためには歩く時間帯をある程度決めるといいですよ。私のおすすめは早朝ウォーキングです。一日の予定を始める前に少し歩いてみませんか。少し遠くの神社にお参りから、公園ウォーキングで5kmなんて素敵な一日が始まりそうではないですか。

「早起きは山門の徳」。休日に足を延ばして歩いた後に冷たいビールで昼呑みも、たまにはいいじゃないですか。



## 日生球場があった頃(3)

最近はパリーグのどの球場も満員で、若い女性ファンの多さに目を見張ります。私がプロ野球を観戦し始めた1960年ごろ(当時小学生)の日生球場はステテコに腹巻き姿の中高年の男性が中心で、女性ファンは数えるほどでした。平日は概ね実数で数百名程の入りでしたが、ある時試合開始時に数えたら30名くらいだったこともありました。グラウンドは両翼が実測で80mくらいしかなくて、外野手はフェンスギリギリで守り、ホームランが乱れ飛ぶ打撃戦が多かったです。選手とお客さんの距離が近いので、野次もよく聞こえました。酒に酔ったファンにやじられた張本選手(当時東映)が怒ってスタンドに向かって言い返していたこともあります。またトイレ等の設備も悪くて、男性は内野スタンドの上にある小屋で壁に向かって用を足していました。当時女子トイレはあったのかどうか?記憶にありません。お客さんが増えたのは1970年にドラフト1位で入団した甲子園のアイドル太田幸司投手以降です。コーチングームに沸き、若い女性が押しかけて、スタンドは一気に華やかになりました。近鉄はその

後監督に三原、西本の両名将を迎えたことやドラフトなどでの戦力の充実もあって強くなり、79.80.89年とリーグ優勝3回を成し遂げるチームに変貌して観客動員も増えるようになりました。さて、日生球場で最後に試合が行われたのは、近鉄が大阪ドームを本拠地にする前年の1996年です。5月9日のダイエー戦では近鉄が大勝したのですが、ダイエーの不甲斐ない試合ぶりに怒った一部のファンがグラウンドに発煙筒を投げ込み、試合終了後には選手が乗るバスを取り囲み、生卵を投げつけるという事件がありました。今となっては懐かしい出来事です。様々な思い出の詰まった日生球場とそこで躍動した近鉄バファローズ、球団が消滅して20年経った今でも決して忘れることはありません。私にとって最高、最強であった近鉄バファローズという球団が大阪に存在したことを子供や孫の世代に伝えたいと思っています。

(永遠の近鉄愛 浪速の酔牛)



## チョコキチョコキとチクチク

去年から、この作文カフェ以外に、素敵なお縁を頂いた。去年開催された[さだまさし五十周年記念コンサート]。

四回違う内容で、四回通しでの申し込み者は、毎回同じ席で楽しめるというもの。その時にお隣になった方といわゆる[さだ友]さんになった。

またのお縁にと交換したインスタグラムを落ち着いて拝見すると、レース切り絵の指導をされてらっしゃった。少し興味もあり、その方の紹介で、近くの教室で、挑戦してみる事にした。

レース切り絵の発案者、蒼山日菜先生のデザイン画を専用の鋏で切っていく。折り紙大の用紙の図案をチョコキチョコキしていくのだが、いつの間にか無心になっていて、時間もあつという間に過ぎていく。出来上がった瞬間は、思わず「わあ!」と、声を上げて、その仕上がりにびっくりしたのを覚えている。

そして、チクチク。

きっかけは、コロナ禍で自宅待機の日が続き、何かお家時間を埋めるのに、と、ふと思い出した大量の端切れ。独身時代に何故か父から貰って、そのままにしていたが、いい機会にと、パッチワークの真似事をしてみた。

そして、少しずつ日常に戻りつつ、いつの間にか針を持つ事も忘れて、ほったらかしにしてたが、今年、久し振りにやってみようと、我流ながら、[なんちゃってパッチワーク]を再開してみた。

自分なりに、端切れをパズルの様に並べてみる。手縫いなので、仕上がりは遅いが、好きなラジオ番組に耳を傾け、少しずつ形にする様子は、達成感もあり、ストレス解消に役立っている。

チョコキチョコキとチクチク、どちらも下手くそなりに私の贅沢な自由時間なのである。

(まりもも)





## 歩いて痩せたら走ってた

梶野 猛

### 第3回 過去の失敗ダイエット

2012年お正月に82kgあった体重が、その年の5月の健康診断では66kgになっていた。

さて、短期間でここまで減らすことができたのは歩いたからだけではない。実は食事についてもかなり自己流の工夫をした。どんな食事をしていたかは次回のお楽しみ。今回は過去に行なったダイエットの話しよう。

私は、50年間肥満だった。しかし、大人になってから、ただ食っちゃ寝で過ごしていたわけではない。過去に、2度食事制限だけのダイエットに挑戦したことがあった。

最初のダイエットは30代。その頃の体重はほぼ80kg。毎週のように友人の家に集まって、お酒を飲みながらトランプで遊んでいた。10月のある週末に集まった友人の中に、かなり太ってしまった奴がいた。その時にどんな話の流れがあったのか、今となっては定かではないが、今年中にどれだけ体重を減らせるのかの賭けをすることになった。その日はできるだけたくさん食べて体重計にのると79kg。友人は78kgだ。この日から年末12月30日までは二人は会わない。その間に減らした体重の差で勝負だ。負けた方が1kg千円を払うという、なんともばかげた勝負だったが、二人とも真剣だった。

さて、どうしたら2カ月という短期間で体重を減らすことができるのか。摂取カロリーを減らせればいいのだ。当時、どこかで聞いたのが一日の基礎代謝量は1600キロカロリー。摂取カロリーをそれ以下にすれば必ず体重は減るはず。書店でみつけたのは、食品のカロリーを詳しくかいた本だ。例えば吉野家の牛丼と松屋の牛丼はカロリーが違

う。ごはんお茶碗一杯は160キロカロリー。この本を常に持ち歩いた。なにしろ対戦相手がどんなダイエットをして体重が減っているのかわからないから疑心暗鬼になる。もし、その差が10kgだったら一万円の出費だ。それほど減らない体重計を見て恐ろしくなってくる。12月、計測の3日前から炭水化物を断った。計測の前日からは何も食べていなかった。30日午後に対戦相手の友人と2カ月ぶりに顔を合わせた。かなり痩せているように見える。立会人の友人の前で裸になって体重計にのると70kgの9kg減。彼は5kg減量していた。その差4kgで私の勝利だ。さっそく、賞金を持って友人たちと王将に行つてビールと餃子で乾杯をした。

それから5年ほどたった。私の体重はふたたび78kgだった。絵に描いたようなりバウンドだ。その頃勤めていた会社の親会社が特定保健用食品を開発することになり、その被験者を募集していた。体脂肪がつきにくくなるという食品だ。被験者になると、朝昼晩3食、カロリーコントロールされた食品が届くのだ。「これだ！」これなら強制的にダイエットにもなるはずだ。早々応募した。毎食小さなロールパンが付いていた。このロールパンに特定保健用食品の秘密があるそう。昼と夜は冷凍のおかずとパックごはん。これを3カ月続けた。最初は楽しんでしたが、ほとんど代わり映えのしないおらずに嫌気がさしてきた頃、私は再びスリムな身体を手に入れた。体重は70kgまで落ちていた。治験終了の日、同じように治験者となっていた同僚たちが居酒屋のカウンター席に並んだ。何を食べてもいいのだ。飲んで食べて治験終了をお祝いした。

時は流れてあれから6年、2012年のお正月。体重計は82kgを指していた。我が中年のダイエットは2度とも失敗に終わっていたのだ。

HAMON vol.3 (2024年5月号)

作文カフェ HAMON編集委員会 (まちライブラリー@もりのみや  
キューズモール内)

発行日: 2024年5月22日 通巻3号